

Q1. 自宅にいたら、どこへ逃げますか？

👉 ポイント

阪神・淡路大震災は早朝、東日本大震災は午後に発生しています。しかし、地震は夜間でも発生します。さらに地震発生後は、すぐに停電します。真っ暗な中でも、落ち着いて行動できるよう、自宅からの避難ルートをしっかり考えておく必要があります。

Q2. 学校にいたら、どこへ逃げますか？

👉 ポイント

各学校では、避難場所を指定しています。子どもたちには再度、避難場所へのルートをイメージしてもらいます。さらに保護者にも、避難場所の周知徹底を行っていきます。また、学校から学校の場合は、（おそらく高台にあるので）地域の住民が避難してくる可能性もあります。具体的な収容人数を試算してみたり、近隣に幼稚園などがある場合は、高学年の子どもたちが幼稚園児の避難協力はできないかなど、地域に合わせた話し合いが必要です。

Q3. もしも、金曜日の午後4時に地震がおきたら、どこへ逃げますか？

👉 ポイント

放課後をイメージしています。公園で友達と遊んでいたり、塾などの習い事に通っていたり、祖父母の家に行っていたり様々です。また、家族も同時刻をイメージして取り組んで頂きたいと思います。気付いて頂きたいこととして、「すぐには会えない」ということ。車や電車も利用出来なくなり、携帯もつながらない。東日本大震災の記録では、親子が再会したのが3日後だった例もたくさんありました。津波から逃れるには、避難が最優先です。お互いが冷静に自分の身を守る行動を取ることができるよう、日頃から話しあって頂きたいと思います。



黒板に地域の地図を貼りだして、子どもたち全員のルートを記入してみましょう。地域のどこが安全で、どのような道を通る方がいいか、など子どもたちと一緒に地域を考えるきっかけにつなげて頂きたいと思います。

